

	課題分析	授業改善策
一年	国：自分の考えや思いを表現する力が弱い。正しく文章（文字・仮名遣い）を書くことが苦手な児童が多い。 算：計算力に個人差がある。数学的な思考力を働かせて問題を解くことが苦手な児童が多い。	国：語彙を増やすために、授業で言葉の意味を教えて、動作化や言葉遊びを通して、言語について学ぶ機会を増やす。日直のスピーチ等で、話すことや書くことの力を伸ばす。 算：授業の前に計算タイムをとり、計算力をつける。ノートに自分の考えを整理して表現する書き方を指導する。ペア学習を取り入れ、自分の考えを説明する機会を増やす。宿題に計算問題だけでなく、数学的思考を働かせる問題も入れる。
二年	国：①漢字を正しく覚えられていない児童が多い。 ②自分の考えや思いを表現する語彙が乏しく、文章力に課題が見られる児童が多い。 算：繰り上がりや、繰り下がりのある計算が苦手な児童が多い。	国：①定期的にミニテストを行い、カードを活用し間違えた漢字をしっかりと直す習慣を身に付けさせる。また、タブレットを活用し、ドリルパークで書き順の練習も行わせる。 ②家庭学習を活用し、日記を書かせることで、文章の構成を理解させる。また、教師が手本を提示したり、よく書けている児童の日記を紹介したりすることで、書くことが苦手な児童も意欲的に取り組めるようにする。 算：計算の知識や技能を定着させるために、プリントやフラッシュカード、個人の計算カードなどを活用し、繰り返し練習を行う。
三年	国：自分の考えを表現することが苦手な児童がいる文章にまとめる際に、語彙の少なさや表現の工夫に課題が見られる。 社：3年生から始まった教科であり、地図や資料を活用し、地域の特色やそれぞれの関係性について考えた経験が少ない。 体：運動することの楽しさを味わうことはできている。動きを高めるための工夫を考えた経験は少ない。また、「みんなが楽しくなるためには」という視点で規則の工夫を考えた経験は少ない。	国：自分の考えを書くときに、見本や書くときの視点を示す。また、少人数のグループで話し合う場を意図的に設定し、考えを伝え合うことに慣れるようにする。文章表現にふさわしい語彙を考える時間を設定する。 社：児童の思考を助けるような、分かりやすい発言や板書を行う。また、資料を読み取り、考えたことを各自で書く時間を十分に取る。そこで気付いたことや分かったことを、グループや学級全体で共有する場を設ける。 体：「動きのコツ」を考え、共有する時間を設定する。また、ポイントを示し、それを基に自分なりにコツを見つけて練習したり、共有したりすることができるような学習の流れにする。また、ゲームなどの時には、「みんなが楽しくなるためには」という視点で規則を工夫する授業展開にする。

四年	国：根拠をもって自分の考えを書くことや、自分の考えを深めることが苦手な児童が多い。 社：都道府県の名称や位置の定着度合いには個人差が大きい。また、提示された資料の読み取りにとどまり、知識の暗記や受動的な学習になってしまう。自身の生活経験と結びつけて具体的にイメージし、探究していくことに課題が見られる。 体：技能を高めるためのコツやポイントが分からずに取り組んで技能向上に結び付かないことがある。そのため、できる児童とできない児童の格差が見られる。	国：本文の言葉や具体例に着目させる発問の工夫を行う。また、例文や書くためのモデル文や記述の観点を示し、思考を整理させ、根拠のある豊かな自分の考えを形成できるようにする。さらに、友達との交流を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。 社：47 都道府県の小テストを継続し基礎知識の定着を図る。また、地域の資料と児童の生活経験を意図的に結びつける発問を構成する。自分事として考える時間を確保するとともに、グループ共有で多角的な視点を育てていく。 体：学習を進めるときに学習資料や映像等で技能ポイントを示し、一つ一つ確かめながら練習することができるようにする。また、練習方法も示したり、友達と見合ったりして、教え合いを進めることができるようにする。
五年	国：物語文や説明文を丁寧に正確に読みとり、それに対する考えをまとめることが苦手な児童が多い。 社：学習した内容から自分で必要な言葉や事柄を選び、授業のまとめや学習問題に対する自分の考えなどを文章で表現する力が十分に身に付いていない。 体：「できるようになりたい」という思いで、技能を高めようとしたり、友達と協力したりする意欲に大きな差がある。また、自己の振り返りが苦手な児童が多い。	国：文を読むときのポイントや手法の指導を行い、登場人物や場面の構成を丁寧に捉えさせると共に、自分の考えを、根拠を基に示す指導を行う。 社：資料の読み取りや話し合いなどからわかったこと、また、授業の最後に学習のまとめを書く活動などを取り入れるようにする。そのために、書く活動ができる十分な時間をとれるような授業計画を立てる。 体：いくつかの場をつくることで、自分に合った場で安心して学習に取り組めるようにする。授業の終わりに「できたこと」「教わったこと」「うまくできるようになったこと」など項目に分けて振り返りを行う。グループやペア交流での振り返りも取り入れていく。
六年	国：自分の考えをもち、伝え合うことが苦手な児童が多い。また、根拠に基づいて自分の考えを書くことが苦手な児童が多い。 社：社会の仕組みや、歴史の事象を捉えることはできるが、自分の生活との関わりを考えながら、自分の考えをもったり、さらに考えを深めたり広げたりすることが苦手な児童が多い。 体：体の使い方を理解していない児童が多く、どこに力を入れるのか、意識して運動している児童が少ない。	国：授業中に、自分の考えを書く時間や、ペアトーク・グループ活動などの話し合いの場を意図的に増やす。また、文を読むときのポイントや手法の指導を、昨年度に続き取り組んでいく。 社：実生活にどのような関わりがあるのかを考えさせる発問を行う。授業の導入や発問などを工夫して、学習してきたことがどのように関わっているのかを意識させる。 体：スモールステップの学習過程を大切にし、どの子も「できる」を味わうことのできる授業を行う。そのために、各領域において、場や用具、ルールなどを工夫して実践する。

専科	算：積極的に発表する姿勢はあるものの、ノートをとらなかったり、持ち物がそろわなかったりする児童がいる。そのような実態から、学習内容は理解していても、技能面での習熟が不足している児童が多い。 理：自らの考えやイメージを言語化することが苦手なで、予想や考察がうまく伝えられない児童が多い。 音：個の学びと協働的な学びの言語を介した活動は充実してきたが、それを音楽表現につなげた互いの表現の交流についてはまだ課題が残る。 図：絵を描くことに難しさを感じ、苦手意識をもっている児童が多い。個の活動になりがちである。 外：本単元の学習事項を使って表現することはできるが、それを活用して自分のことを表現することが苦手な児童が多い。既習事項を活用して自分のことを表現することができる児童とそうでない児童に差がある。	算：技能面の指導をしっかりとっていく。具体的には、定規を使って図やグラフをかくように指導していく。家庭に働きかけて持ち物をそろえるなど、生活面を整え、学習記録を積み重ねる楽しさを味わわせる。 理：ノートを活用して、自分の考えをまとめると共に、書くことでアウトプットによる整理をし、他者の意見も記入し、比較することができるような授業の流れをつくる。 音：主体的・対話的に考え方や感じ方を広げ深め合うよう、学習活動を工夫する。 児童の考えを引き出し、思考をつなぐよう、教師が働きかけを工夫する。 図：様々な表現方法を体験させ、写実的な表現が全てではなく、それ以外の美しさ、楽しさを感じられるよう指導する。また、児童同士が対話的につながれる課題設定をしていく。 外：small talk を活用して、日常的に会話表現に慣れ親しむ環境を作っていく。また、既習事項を使った表現方法を取り入れ、継続して使えるように実践していく。
----	---	---